



オクソン 倶楽部



1995年 夏季号

いま私の前に「縁」という冊誌がある。関西のみなさんには馴染みの関西電力のPR誌だ。関東に住む私の手元にこれが送られてくるのは、題字の縁の字が中川一政氏の書でこれを取り持ったのが私に縁のある方々だったからだ。これこそ縁である。

縁という言葉はそもそもは仏教から来たものらしいが、今では広義に「目に見えないつながり」といった程度に使われている。

中川一政先生に初めてお目にかかったのは、若い頃お世話になった小林和作氏の評伝を書くための取材だったが、他にも色んな縁があった。子息とはテレビで脚本と演出

縁



縁は異なもの

として一緒に仕事をしてきた仲だし、そのプロデューサーは以前画廊に勤めていて中川一政係りだった。お孫さんを女優に借り出した縁もあるし、娘婿の原保美さんとは数十年の付き合いだ。地元で顕彰運動をやってきた歌人の三ヶ島葎子は先生の古い親友だった。

思えてならない。運命の糸は意図的と思えるほど二人を結びつけていたわけだ。こんな縁で、私は先生のお供をして奈良の工房へ通うようになったのだが、これとは全く関係なく松竹芸能のK氏からオクソンを紹介され、ある時お店の企画でクルージングによる備前行きの際、船で話をする羽目になった。しかも、当のK氏は

房へ遊びに来られたりすることになるのだから縁とは不思議なものである。ところで「縁は異なもの」というのは、正しくは男女の関係にしか使わないそう。その意味では異な縁に恵まれないのは、まことに残念なことである。



高橋玄洋

高橋玄洋氏

プロフィール

昭和四年島根県松江生れ
昭和二十九年
早大日本文学卒業。
劇作を北条秀司氏に師事

昭和三十九年
久保田万太郎賞受賞

昭和四十七年
芸術選奨・文部大臣賞受賞

平成四年 紫綬褒章受賞
現在

日本文芸著作権保護同盟理事長代理

日本文芸家協会評議員
日本演劇協会理事
日本放送作家協会理事
坂本直行記念館長

主な作品
TV「判決」「薊子ひとり」「野々村病院物語」
小説「志都という女」
「蝶たちの冬」

舞台「いのちある日を」「生ける標あり」

随筆集「興味津々」
作品集「花火」等

仕事で欠席だという。

早朝、心細く大阪港へ出向いてみると、思いがけない顔が待っていた。

中川先生のご縁で旧知のS氏（当時大阪高嶋屋美術部）がオクソンの常連だったのだ。地獄で仏とはこのことだろう。

後にS氏の姪御さんたちとはイタリアへ旅行したり、オクソン倶楽部の皆さんが作陶に奈良の工

暑中お見舞い申し上げます

平成七年盛夏

七月、八月は暦どおり

営業致しております。